

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇
発生予察注意報第1号

**ネギ及びキャベツでネギアザミウマが多発しています。
本種が媒介するネギえそ条斑病の発生にも注意が必要
です。**

- 1 作物名 ネギ・キャベツ
- 2 病虫害名 ネギアザミウマ・ネギえそ条斑病
- 3 発生地域 山城・南丹地域
- 4 発生量 ネギアザミウマ 平年比やや多い
 ネギえそ条斑病 多い

5 注意報発令の根拠

- (1) 4月第3半旬の巡回調査で、山城地域のネギでのネギアザミウマによる被害株率及び被害度は、過去10年と比較して最も高く、発生量は平年比多い(表1)。
- (2) 同時期のキャベツで、本種による被害株率が高い(表2)。

表1 ネギでのネギアザミウマ発生状況(山城地域 25株/ほ場調査)

項目\年次	本年	前年	平年値
被害株率(%)	96.3	36.0	14.9
被害度 [※]	28.4	9.6	4.0
発生ほ場率(%)	100	100	53.8

$$\text{※ 被害度} = \frac{4A + 3B + 2C + D}{\text{調査株数} \times 4} \times 100$$

被害程度A：1株の51%～100%の葉に被害が認められる。
 被害程度B：1株の31%～50%の葉に被害が認められる。
 被害程度C：1株の11%～30%の葉に被害が認められる。
 被害程度D：1株の1%～10%の葉に被害が認められる。
 被害程度E：被害なし

表2 キャベツでのネギアザミウマ発生状況(山城地域 25株/ほ場調査)

項目\年次	本年	前年	26年	25年
被害株率(%)	92.0	10.0	34.0	42.7

- (3) 3月下旬に採集した山城地域2地区のタマネギ及び南丹地域のネギについて、DAS-ELISA法で検定した結果、えそ条斑病の発病を確認した。
- (4) 4月第3半旬の巡回調査でも、ネギえそ条斑病の発生を確認している。
- (5) 大阪管区气象台が4月14日に発表した「近畿地方の向こう1か月の気象予報」では気温は平年比高く(+)、降水量は平年比多い(-)と予想されている。

6 防除上の留意事項

- (1) ネギアザミウマは葉を食害してネギの商品価値を低下させるだけでなく、ネギえそ条斑病の病原ウイルスであるアイリス黄斑ウイルス (Iris yellow spot virus (IYSV)) を媒介する。
- (2) ネギえそ条斑病の防除には、媒介虫であるネギアザミウマの防除が有効である。
- (3) 南丹地域以北の中丹・丹後地域のネギでも病原ウイルスの感染を確認しているので、ネギアザミウマ及びネギえそ条斑病の発生には十分注意する。
(詳細は平成26年9月9日発行の「防除所ニュース第6号」
<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/news201406.pdf> を参照のこと。)
- (4) ネギアザミウマは南丹以南の地域では新系統(産雌性)が優占し、丹後地域では在来系統(産雌性)が優占している。
※ 新系統：雄と雌が交尾して繁殖する系統(両性生殖)。在来系統は雌だけで繁殖する(産雌性単為生殖)
(詳細は平成27年11月16日発行の「防除所ニュース第5号」
<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/201511news.pdf> を参照のこと。)
- (5) 府内ではまだ確認していないが、近年、他県ではキャベツで本種の加害により結球部の食害部分がカルス状になり、その後、加害部分からの腐敗等により、褐色化あるいは黒化し、時には硬化あるいは腐敗し、品質が著しく損なわれる事例が報告されている。

7 防除対策

- (1) ネギアザミウマはユリ科、ナス科、ウリ科やアブラナ科など広範な植物に寄生することから、発生源となるほ場周辺の除草を行う。
- (2) ナス、キュウリ等の農作物にも寄生することから、ほ場周辺のこれらの農作物でも防除を徹底する。また、本種が寄生した収穫後の残渣は土中に埋めたり、堆積した上、ビニルで被覆する等処理し、密度低下に努める。
- (3) 薬剤散布によるネギアザミウマの防除を実施する。定植時には粒剤による初期防除を、生育中は粒剤や散布剤による防除を行う。
防除薬剤を使用する際は、使用基準を厳守すること。
なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」(<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vt11m001.html>)を参照のこと。
- (4) ネギアザミウマは薬剤感受性の低下が懸念されている。薬剤散布後は効果を十分に確認し、感受性の低下が疑われる場合は系統の異なる薬剤を散布する。また、感受性の低下を避けるため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する(表3、表4)。
- (5) 新系統と在来系統の殺虫剤感受性は異なる可能性があるので注意する。
- (6) 施設栽培では、開口部の防虫ネット設置やUVカットフィルム被覆を行う。露地栽培でも、防虫ネットによる被覆が有効である。防虫ネットは、赤色ネットを用いるとより効果が高まる。

表3 「ネギ」でネギアザミウマまたはアザミウマ類に登録のある主な薬剤

IRACコード	薬剤名	希釈倍率・使用量(kg/10a)	使用時期	使用回数	総使用回数	
1A	ランネット45DF	1,000 ~ 2,000倍	収穫7日前まで	4回以内	4回以内	
1B	マラソン乳剤	2,000 ~ 3,000倍	収穫7日前まで	6回以内	6回以内	
	ダイアジノン乳剤40	700 ~ 1,200倍	収穫21日前まで	2回以内	2回以内	
	スミチオン乳剤	700 ~ 1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	2回以内	
	サイアノックス乳剤	500 ~ 1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	2回以内	
3A	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内	5回以内	
	アディオン乳剤	3,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内	
4A	ダントツ粒剤	6kg	は種時	1回	4回以内 (定植時までの処理は1回以内)	
		6kg	植付時			
		3 ~ 6kg	収穫3日前まで			
	ダントツ水溶剤	2,000 ~ 4,000倍	収穫3日前まで	4回以内		
	アクタラ粒剤5	6kg	は種時	1回		4回以内 (定植時までの処理は1回以内、 散布は3回以内)
		6 ~ 9kg	植付時			
	アクタラ顆粒水溶剤	1,000 ~ 2,000倍	収穫3日前まで	3回以内		
	ベストガード粒剤	50g/セルトレイ・ペーパーポット	定植当日	1回	4回以内 (定植時までは1回以内、 株元処理及び水溶剤の散布は合計3回以内)	
		6kg	は種時			
	ベストガード水溶剤	6kg	定植時	3回以内		
		1000倍	収穫前日まで			
	スタークル粒剤 (アルバリン粒剤)	6kg	は種時または定植時	1回		4回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内、 育苗トレイへの 灌水・定植時の株元 散布は合計1回以内、 散布・定植後の株元 散布は合計2回以内)
		6kg	生育期(収穫3日前まで)	2回以内		
	スタークル顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	50倍・0.5L灌水/セルトレイ・ペーパーポット	定植前日~定植時	1回		
		400倍株元灌水(0.4L/m ²)	生育期(収穫14日前まで)	1回		
	モスピラン粒剤	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内		
		0.25 ~ 0.5g/株	定植前日~定植当日	1回	3回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内、 植付時の土壌混和・ 定植当日までの株元 散布は合計1回以内)	
	6kg	は種時				
6kg	植付時					
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内			
アドマイヤー1粒剤	4kg	定植時	1回	3回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、 散布は2回以内)		
アドマイヤー顆粒水和剤	5,000倍	収穫14日前まで	2回以内			
5	スピノエース顆粒水和剤	2,500 ~ 5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内	
	ディアナSC	2,500 ~ 5,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内	
6	アグリメック	500 ~ 1,000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内	
	アニキ乳剤	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内	
9B	コルト顆粒水和剤	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内	
15	アタブロン乳剤	2000倍	収穫21日前まで	3回以内	3回以内	
	カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内	3回以内	
21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内	2回以内	
28	ベネビアOD	2000倍	収穫前日まで	3回以内	4回以内 (灌水は1回以内、 散布は3回以内)	
	ベリマークSC	2,000倍株元灌水(0.5L/m ²)	収穫7日前まで	1回		
		400倍・0.5L灌水/セルトレイ・ペーパーポット	育苗期後半 ~ 定植当日			
29	ウララDF	1,000 ~ 2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内	
	ブレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内	4回以内	

※ IRACコード(殺虫剤コード)

殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

※ 各薬剤の登録内容は平成28年4月15日現在のものである。

農薬の使用に当たっては、最新の使用方法や注意事項等を必ず確認すること。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、有効成分の総使用回数についても注意すること。

表4 「キャベツ」でネギアザミウマまたはアザミウマ類に登録のある主な薬剤

IRACコード	薬剤名	希釈倍率・使用量 (kg/10a)	使用時期	使用回数	総使用回数
1B	マラソン乳剤	2,000 ~ 3,000倍	収穫前日まで	5回以内	5回以内
2B	プリンスフロアブル	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	3回以内 (定植前の処理は1回以内、 定植後の散布は2回以内)
3A	アグロスリン水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内	5回以内
4A	ダントツ粒剤	3~6kg	は種時	1回	3回以内 (定植時までの処理は1回以内、 定植後の散布は2回以内)
		6kg	地床育苗期		
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000~4,000倍	収穫7日前まで	5回以内	6回以内 (粒剤の定植時までの処理は1回以内、 散布及び定植後の株元散布は合計5回以内)
5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	4回以内 (定植前は1回以内、 本圃では3回以内)
	ディアナSC	2,500~5,000倍 50 ~ 200倍・0.5L灌注 ／セルトレイ・ペーパーポット	収穫前日まで 育苗期後半	2回以内 1回	3回以内 (定植時までの処理は1回以内、 散布は2回以内)
9B	コルト顆粒水和剤	3,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	2回以内
28	ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、 定植後の散布は3回以内)
	ベリマークSC	400倍・0.5L灌注 ／セルトレイ・ペーパーポット	育苗期後半 ~ 定植当日	1回	
	プリロッソ粒剤	50g /セルトレイ・ペーパーポット	育苗期後半 ~ 定植当日	1回	

※ IRACコード(殺虫剤コード)

殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

※ 各薬剤の登録内容は平成28年4月18日現在のものである。

農薬の使用に当たっては、最新の使用方法や注意事項等を必ず確認すること。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、有効成分の総使用回数についても注意すること。